

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和5年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	千葉大学	整 理 番 号	1903
プログラム名称	革新医療創生 CHIBA 卓越大学院		
プログラム責任者	中谷 晴昭	プログラムコーディネーター	斎藤 哲一郎
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間評価の段階で、トリプル指導教授制度やローテーション演習というような仕組みづくりがしっかりできていたので、それが機能して多くの成果が得られている。学生の意欲や満足度はきわめて高く、面談においては、将来、海外で活躍したいという学生が大半というような結果につながっている。 ・ 医学部を主体として薬学部や理工系との連携を構築しているため、医学部出身以外の学生や留学生には難関であったが、中間評価の結果を踏まえて、先端医学薬学専攻博士課程の定員を増やすことやプログラムの周知活動を強化することで、医学部出身以外の合格者が増え始めている。また、医学部以外から入学した学生に対しては、まだ少数ではあるが十分目が行き届いていて、特に不満や課題は感じていないとのことであった。 ・ UCSD でのダブルディグリーについては、まだ入学実績はないが、志望者は何人かおり、教員がバックアップしながら、合格を目指しているとのことである。 <p>【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院全体として、クラスター制 CHIBA 教育システムというコンセプトを掲げており、その一環として、本プログラムが融合領域形成のグッドプラクティスとして機能している。 ・ 中間評価で指摘した、同年度に採択をした人文系を中心としたプログラムとの連携について、卓越教養特論を共同で企画するなどの取り組みを始めている。本プログラムで、よく機能しているしくみを共有したり、連携の範囲を人文系に広げたりすることでさらなる成果が期待できる。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修士課程からの入学者が少ない。また、理工系や人文系との連携は、現状では、従来、医学とのつながりの深い分野が中心となっている。幅広くイノベーションを目指す人材を育成するためには、新しい研究分野からの学生の入学にも期待したい。その方策として、ホームページやポスターでは限界があるため、学生が博士課程から先端医学薬学専攻へ移籍することで医学部との連携が強化され研究室の価値が高まることを理工系や人文系の教員が理解することや、民間企業からの社会人入学のような形が望ましい。 ・ 先述したように、将来のロールモデルとして、海外での活躍を希望している学生が多いが、感染症や円安の影響もあり、海外留学やインターンを経験した学生は少ない。多くの海外の研究機関との連携を活用して、この実績を増やすことを期待したい。 ・ 卓越大学院の学生だけが使用できる部屋が準備されているが、通常のセミナー室で、何かイベントを企画しないと使えない状況である。低学年の学生からは、先輩との縦のつながりを望む声もあり、気軽に交流できる場についても検討されたい。 <p style="text-align: right; margin-top: 20px;">以上</p>			